

船舶事故等調査報告書

平成24年10月25日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012横第99号	
事故等種類	衝突	
発生日時	平成24年5月11日 22時20分ごろ	
発生場所	茨城県茨城港日立港区東方沖 茨城県日立市所在の日立港東防波堤灯台から真方位094° 5.7海里付近 (概位 北緯36° 28.5′ 東経140° 45.0′)	
事故等調査の経過	平成24年6月28日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 引船 第二十八 ^{ふみ} 富美丸、135トン 135299、富美船舶株式会社、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 B 土運船 第11 ^{ほうせき} 芳石、約1,246トン なし、株式会社吉田組船舶、株式会社吉田組	
乗組員等に関する情報	船長A、四級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	A 左舷船首部に凹損 B なし	
事故等の経過	A船は、船長Aほか4人が乗り組み、A船の乗組員が無人のB船に乗り移り、えい航ロープを取るため、B船へ接舷作業中、風浪によるピッチングとローリングが重なり、平成24年5月11日22時20分ごろ、茨城港日立港区東方沖において、A船の左舷船首部とB船の左舷中央部とが衝突した。 A船は、B船にえい航ロープを取り終え、両船共に漏油及び浸水等の異常がなかったので、えい航を開始した。	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北東、風力 5 海象：波高 約2.5～3.0m	
その他の事項	B船は、他の引船にえい航されていたが、ロープが切断したため、A船がえい航することになった。 船長Aは、天候が回復するまで待っている間はB船が陸岸に圧流されて危険であると思い、接舷作業を行った。 A船の乗組員は、作業中は救命胴衣を着用していた。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	A あり、B なし A なし、B なし A あり、B あり A船は、茨城港日立港区東方沖においてB船に接舷作業中、風浪によるピッチングとローリングが重なったことから、B船と衝突したものと考えられる。

原因	本事故は、夜間、A船が、茨城港日立港区東方沖においてB船に接舷作業中、風浪によるピッチングとローリングが重なったため、B船と衝突したことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ えい航中に荒天が予想されるときや波の高いときは、出港を見合わせる。